音楽科「 器楽と創作 」授業実践紹介

学年：１年普通科　キャリア探求科

単元名：ギター弾き語りと作詞作曲　～シンガーソングライターになろう～

単元のねらい

１．ギターの弾き語りの基本的な演奏方法を身に付けると共に、音楽と言葉の関係性を理解し、作品制作に活用する。

２．題材となる経験や思いを深めることで、自己を再認識すると共に、他者の表現を深く理解しようとする態度を養う。

単元の流れ

①　１学期６月～：ギター弾き語り【６時間】

・ギターの基本的な名称・演奏方法の理解（１時間）

・旋律の演奏・伴奏のコードの演奏（２時間）

・ペアで旋律と伴奏の演奏練習・実技テスト（３時間）

②　２学期９月～：作詞方法の理解・分析【３時間】

・作詞の技法の理解（１時間）

・自分の好きな曲の歌詞分析・発表（２時間）

③　２学期９月～：創作【１１時間】

・オリジナル作品の旋律と題材の決定（１時間）

・作詞・弾き語りの練習（８時間）

・旋律と詞を合わせる（２時間）

④２学期末：実技テストとまとめ【３時間】

・実技テスト（２時間）

・作品提出と振り返り（１時間）

パフォーマンス課題のルーブリック

	A	B	C
弾き語り	基本的な奏法が身についており運指がスムーズ	遅いテンポなら正確に演奏することができる	正しい運指で演奏することができない
	ギター演奏と合わせて旋律を歌うことができる	ギター演奏が遅れがちになるが弾き語りできる	ギター演奏をしながら歌うことができない
作詞	音楽的特徴や表現内容に合わせて、言葉を選んで作詞することができる	自分の思いを詞で表現することができる	自分の力で作詞することができない
表現の工夫	コードのリズムを工夫して演奏することができる	コードのリズムを工夫しようと練習している	コードのリズムを変えることができない
	歌詞や音楽の構成に合わせて歌声やギターのダイナミクスを工夫して表現することができる	表現することには積極的だが、工夫して演奏するまで表現を磨くことができていない	曲の構成を理解できず、表現することにも消極的

実践の背景

■学校教育の器楽の中でも、特にギターは、練習と指導の反復が上達の鍵となる楽器である。そのため、週に１回の授業で、基本奏法から弾き語りまでを習得させることに毎年苦労していた。そこで、毎時間の目標と、その練習の記録を取らせ、目標に対する成果と課題の意識を持続させられるよう、取り組みを行った。

■歌詞への興味関心が高い生徒が多い一方で、既存の作品を演奏するだけの、表面的な表現で満足しがちであった。今回、創作に取り組むことによって、個々の生徒の表現意欲を刺激し、より良い表現を追求する態度を養うと共に、自他の経験や想いを深く理解するきっかけとしたい。

授業改善のアプローチ

■毎時間、約９０%の生徒が達成可能な目標を設定し、達成感を持って終了できるよう配慮した。

■音楽的特徴の異なる曲のパーツを複数作曲し、題材のテーマに合わせて選択できるよう工夫した。

■友人とペアでの創作の時間と、担当教員に質問・相談の時間を交互に取ることで、それぞれの進度に合わせた内容で、助言や支援を行った。

■作品は、個々の心の表現であるため、全体への発表というスタイルは避け、実技テストの形とした。

単元のヤマ場となる授業場面　　創作【１１時間】

第１次（１時間）	第２次（８時間）	第３次（２時間）
作品となる旋律の音楽的特徴を理解し、題材に合わせて選択、決定する。	自分の経験や思いを元に、題材に関する単語を出していく。また、作詞の様々な技法を取り入れながら、直接的でない言葉の選択の可能性を探り、詞の世界を広げる。同時にギターの弾き語りを行う。	完成した詞を旋律と合わせていく。音楽と言葉の関係性を意識しながら、旋律を変更するか、言葉を選び直すか、どちらが相応しいか検討しながら、完成させる。

パフォーマンス課題

あなたはシンガーソングライターです。あなたが表現したい（伝えたい）経験や思いを、音楽と歌詞に込めてオリジナル作品を創作し、弾き語りで演奏してください。その時、音楽の構成に合わせて詞を展開させながら、サビとなる部分で最も伝えたいメッセージを表現してください。

評価

練習記録用紙・作詞した楽譜の提出と、実技テスト

［練習記録用紙（２０%）作詞（４０%）実技テスト（４０%）］

生徒の変容

① ギターを演奏することが目的ではなく、自分の思いを表現することが最終目的となったため、単調なギター練習にも意欲的に取り組むことができていた。また、スモールステップで達成感を感じさせながら、毎週新たな目標設定をしたことも、上達の要因となった。

② 「音と歌詞を合わせていくのが大変だった」という感想にもあるように、生徒から相談が多かったのは、音のまとまりと言葉のまとまりの関係性である。創作することによって音楽と言葉の融合に意識が向けられていた。

③ 「自分が経験したり感じたことが大事だと思った」など、自分について深く考え、再認識することができていた。また「作詞はすごく難しかった。作詞している人はすごい」など、今後、鑑賞者として他者を深く理解することにもつながっていくと感じている。